

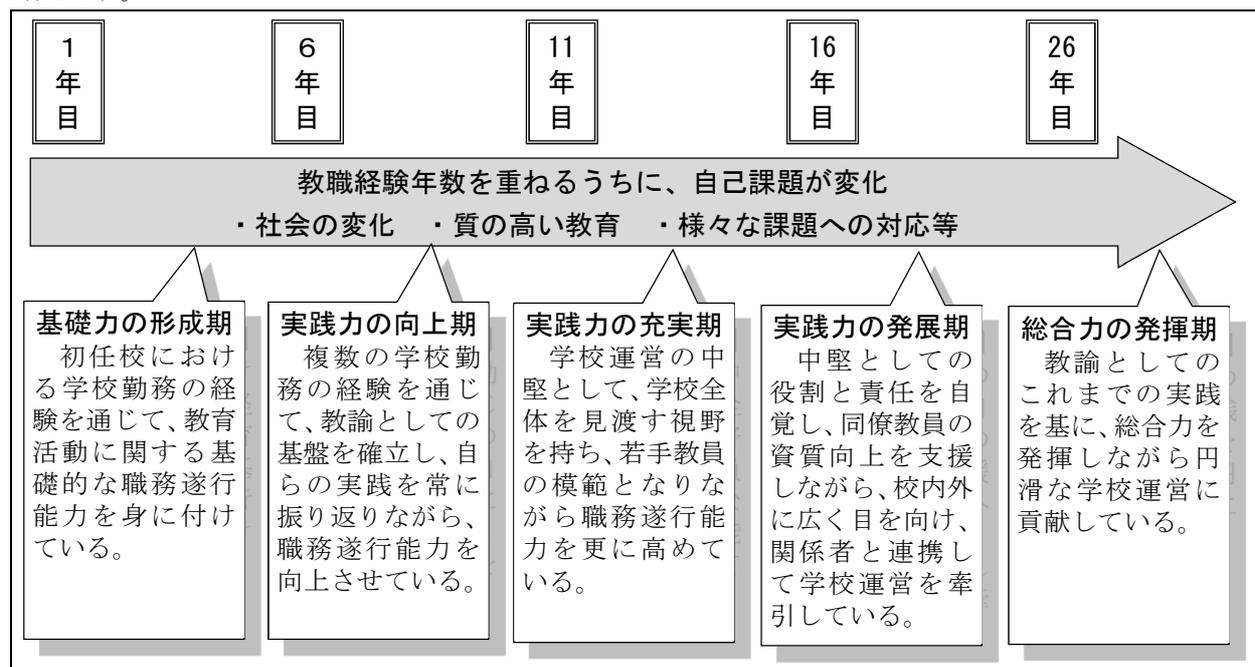
## 7 自己研修の進め方

### 1 自己研修の考え方

『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方」の中に、「新たな教師の学びの姿」として、改めて「学び続ける存在」であることが示されています。

本県の初任者・2年目・3年目研修においては、アクション・リサーチという手法で、資質向上を目指しています。

【図1】のように、教職年数を重ねるうちに、目指す姿は変化していきます。その時々状況に応じて職務を遂行できるように、私たちは、教職生活全体を通じて「学び続ける存在」であることが不可欠です。



【図1】 本県育成指標における教職年数と目指す教員像の関係

### 2 自己研修の進め方

自己研修は、次のように進めます。さらに、蓄積したポートフォリオを評価することも並行して行うことで自己研修の振り返りに役立ちます。

#### (1) 現状把握

教員は、学習指導、生徒指導、学級経営等、日々様々な指導を行っています。日々の実践を振り返り、順調に進んでいる点と問題点を把握します。

#### (2) 自己研修のテーマ設定

把握した問題点からテーマを設定し、指導実践を積み重ねながら試行錯誤し、よりよい指導の在り方を探究することが求められます。諦めずに洞察を深めていく姿勢は、自己研修を進める上で極めて大切なことです。

#### (3) テーマの明確化

自己研修のテーマを設定する際は、物事の本質を見抜くことが必要です。自分が設定したテーマにはどのような原因や要因があるのでしょうか。教員としての指導力、児童生徒の家庭環境、周りの児童生徒との関わり方など、テーマに関わる根幹を見つめ直すことをねらいとします。

#### (4) 情報収集と予備調査

学習指導に関しては、参考となる文献や研究に関する書物などが数多く発行されています。これらを紐解き、児童生徒の実態に合った情報を収集することが必要になります。また、学習内容に関わる事前テストも予備調査として有効です。

(5) 方法や手立ての立案

設定したテーマを解決するためには、具体的な方法や手立ての立案が鍵になります。実際の指導においてどのような手立てをとるのか、指導の順序も含めて計画的に考えましょう。

(6) 育成を目指す児童生徒の姿の設定

立案した方法や手立てを実践するにあたり、児童生徒が具体的にどのような姿になれば課題が解決されたといえるのか、具体的な目標設定が不可欠です。児童生徒の具体的な変容した姿等を追究しながら解決の手立てを実践していくことが大切だからです。

学習指導では、「〇〇ができるようになった。」という行動目標や「事後テストで〇〇点とれるようになる」という数値目標が考えられます。

学級経営や生徒指導では、数値目標の設定が難しい場合がありますが、事前アンケートを実施し、事後アンケートで変容を分析することも有効です。

教員側の一方的な実践で終わることがないように、児童生徒の変容した姿を思い描きながら目標を設定することが重要です。

(7) 計画立案

自己研修の期間は、設定したテーマや方法、手立てによって大きく異なります。たとえば、学習指導についてのテーマを設定した場合、1単位時間で完結することもあります。一方、単元全体を見通したテーマでは、10時間以上の実施期間が必要になる場合もあります。

さらに、学級経営や生徒指導のテーマでは、複数回の指導や多様な手立てを講じる必要があり、長期的な計画立案が求められます。

計画を立てる際は、自分自身に無理のない方法を心がけ、児童生徒への負担にも十分配慮しましょう。

(8) 実践

計画に基づいて実践を行う際は、立案した方法や手立ての妥当性を見極め、計画をやり遂げることが重要です。可能であれば、実践の様子を他の先生方に見てもらい、客観的な意見を次の「実践の考察」や「振り返りと実践交流」に役立てましょう。必要に応じて、動画、音声、写真等で記録を残し、分析に活用することも有効です。

(9) 実践の考察

実施後、「育成を目指す児童生徒の姿」へどれだけ近づけたかを検証します。十分な成果が得られた場合もあれば、期待した結果に至らなかった場合もあるでしょう。

その際は、自己研修の過程を振り返り、「方法や手立ての立案」に立ち返って改善し、必要に応じて繰り返し取り組むことも考えましょう。

(10) 振り返りと実践交流

「自己研修のテーマ設定」から「結果の分析及び考察」までの自己研修の一連の流れを振り返り、効果があったことを簡潔にまとめます。まとめた内容は、同学年の先生方や校内研修、基本研修などの場で共有し、研修者同士で交流しましょう。

「テーマ設定の仕方」、「手立てと検証方法の妥当性」などの視点を踏まえ、自分に身に付いた力を自覚することが大切です。

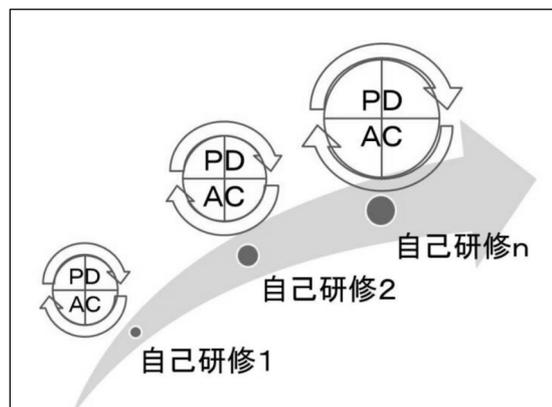
(11) 改善

【表1】に示すように、自己研修の進め方を継続的に改善していくPDCAサイクルは、段階を経て課題を解決します。振り返りや交流を通じて、新たな課題や問題点を見だし、設定されたテーマを基に自己研修を繰り返すことで、見識をさらに深めることができます。

また、【図2】のように、自己研修を繰り返し行っていくことが、「学び続ける教員像」の確立へつながります。

P (Plan)	現状把握 自己研修のテーマ設定 テーマの明確化 情報収集と予備調査 方法や手立ての立案 育成を目指す児童生徒の姿の設定 計画立案
D (Do)	実践
C (Check)	結果の考察 振り返りと実践交流
A (Action)	改善

【表1】PDCA サイクルと自己研修の段階



【図2】自己研修の全体像

### 3 自己研修を進めるために配慮する事項

(1) 自己研修の目的を確認する

自己研修を始める前、または研修の途中で、「なぜ、何のためにこの研修をしているのか」を確認することが大切です。自己研修は自己の資質を向上させ、児童生徒の学習環境を改善することを目的としています。

自己研修の各段階で目的意識をもち、自ら進んで研修に取り組みましょう。

(2) 自分自身の思いや考えを大切にす

自己研修を進める際は、現在の課題、学びたい内容、児童生徒に身に付けさせたい力など、自分自身の思いや考えを出発点とします。児童生徒の様子や自分自身を見つめ直し、今自分に必要なことを明確にして、テーマを設定しましょう。

単なる思いつきでテーマを設定するのではなく、自分自身や学習環境を見つめ直したり、情報収集をして見識を深めたりしながら、今取り組むべきテーマを明らかにすることが重要です。こうしたプロセスは、主体的な研修につながります。

(3) 児童生徒と共に成長していく視点を大切にす

自己研修は、テーマを設定し、解決の手立てを実行しながら実践を積み重ねることで、教員の自己成長につながります。しかし、児童生徒は研究の対象者ではなく、共同研究者と考えることが重要です。教員の指導（自己研修）は、児童生徒の成長に生かされます。PDCAサイクルを効果的に活用し、教員と児童生徒が共に成長していくという視点をもって自己研修を進めましょう。

(4) 周囲の先生方や上司との対話を大切にす

自己研修を進めるうえで、うまく進んでいる時も、思うように進まない時にも、一人で判断したり抱え込んだりせず、周囲の先生方に相談して試みるのが大切です。同じような経験をしたことがある先生から、的確なアドバイスをもらえる場合があります。

また、計画を実施する際は、周囲の先生方に参観してもらいましょう。参観後の対話を通じて、自己研修の妥当性や手立てに対する考えを深め、情報を共有することで、互いの専門性の向上につながります。

(5) 客観的に振り返る機会を設定す

振り返りでまとめた記録を活用しながら、自己研修全体を振り返る機会を設けることが重要です。時には、他の先生方から意見をもらい、謙虚に耳を傾けることで、独り善がりの指導にならないようにします。こうした振り返りは、児童生徒の学習環境の改善に直結します。

◆ 自己研修の資料は岩手県立総合教育センターのホームページからダウンロードできます。

- ・ 教員のための自己研修の進め方 (PDF)
- ・ 初任者・2年目・3年目研修における自己研修の進め方 (PDF)

[https://www1.iwate-ed.jp/03kenshu/20\\_jikoken.html](https://www1.iwate-ed.jp/03kenshu/20_jikoken.html)



- ◆ 総合教育センターで行われる2年目及び3年目研修では、自己研修の発表と交流があります。対象者は、年度初めから「自分にとって必要であり、自分サイズの無理のないテーマ」を設定し、ポートフォリオを蓄積するなど、主体的で計画的な取り組みを進めましょう。

まずは短期間でのPDCAサイクルや、段階を戻して取り組むことを心がけ、PDCAサイクルを繰り返し継続することで、「学び続ける教員像」を目指します。

#### 4 自己研修の進め方のイメージ

